

## 第1期障害児福祉計画に係る障がい児福祉のニーズ調査の概要について

平成29年11月28日

## 1 調査概要

- ・調査目的 障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業利用のニーズの把握  
施策に対する要望の把握
- ・調査対象 境港市内の障がい者手帳を所持している障がい児の保護者  
境港市内の障がい児通所支援を利用している障がい児の保護者
- ・調査方法 対象者宛に郵送でアンケート用紙を送付して実施
- ・調査期間 平成29年8月上旬～平成29年9月1日

## 2 調査内容

- (1) 基本情報 年齢、障がい種別、在住市町村、医療的ケアの要否
- (2) サービスの利用ニーズ 施設種別ごとの障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業利用のニーズ
- (3) 施策に対するニーズ 相談している機関、今後充実を希望する施策

## 3 回答数等

(回答数)55 / (発送数)148 ※回答率37.2%

## 4 回答の概要

○障がい者手帳の種別では、「療育手帳」が最も多く、次いで、「手帳なし」、「身体障害者手帳」の順。

○障がい種別では、「発達障がい」が最も多く、次いで「知的障がい」、「肢体不自由」の順。

○サービス利用については、「放課後等デイサービス」、「児童発達支援」、「保育所等訪問支援」、「福祉型短期入所(ショートステイ)」は今後利用したいというニーズが高かった。

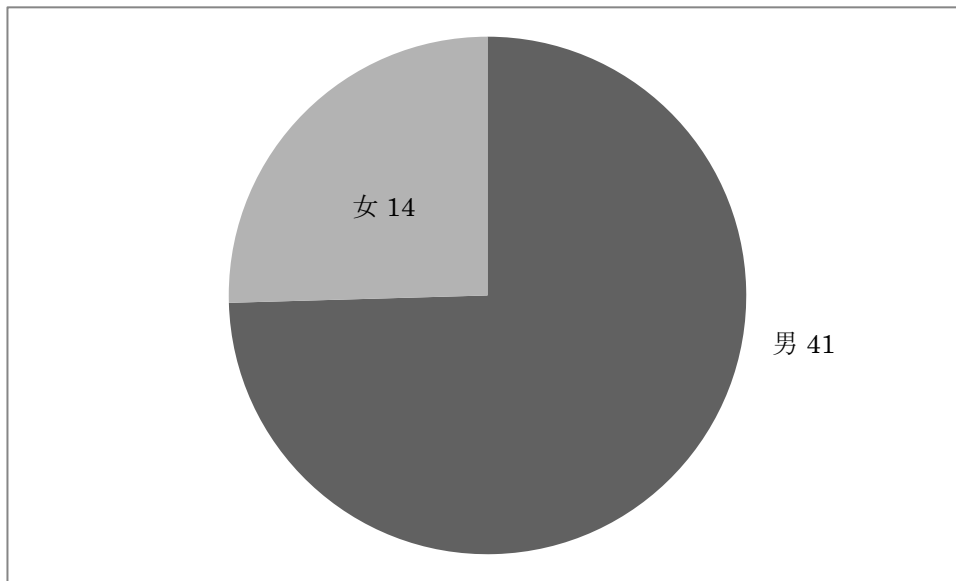
○子ども・子育て支援事業利用のニーズでは、特に満3歳以上から小学校就学前までの保育が必要な児童が「保育所、認定こども園」を今後利用したいというニーズ、「放課後等児童クラブ」のニーズが高い傾向にあった。

○相談相手については、「家族・友人・知人」、「学校・保育所等」、「障がい児通所支援事業所」が多いのに対して、「相談支援事業所」や「障がい者団体・家族会」が少ない傾向にあった。

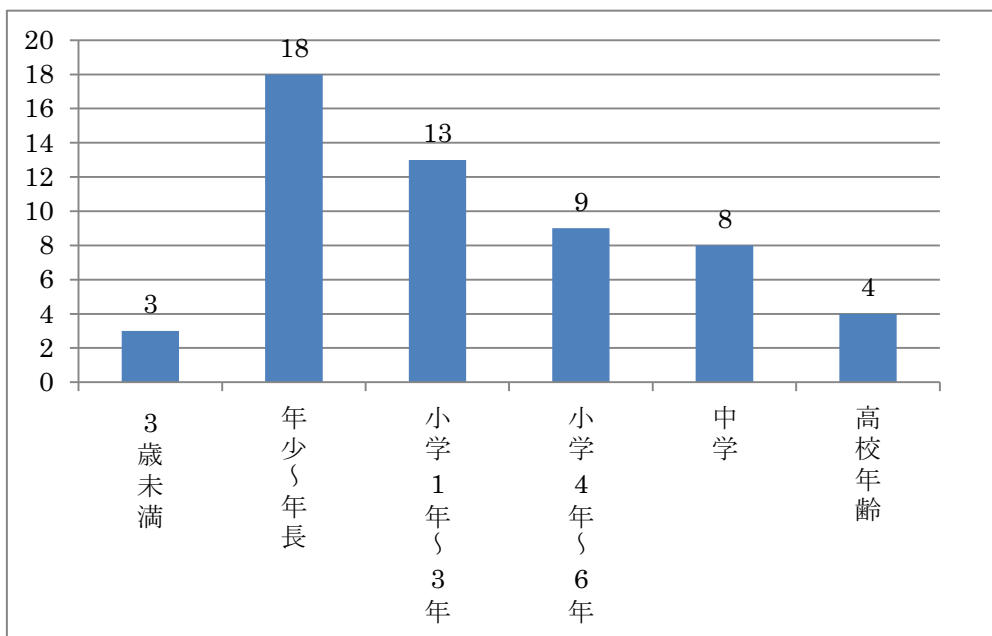
○施策に関するニーズについては、「身近な地域での障害児通所支援事業所の充実」が最も高く、続いて、「医療・福祉・教育機関の連携強化」の順で高い。

## 5 データ概要

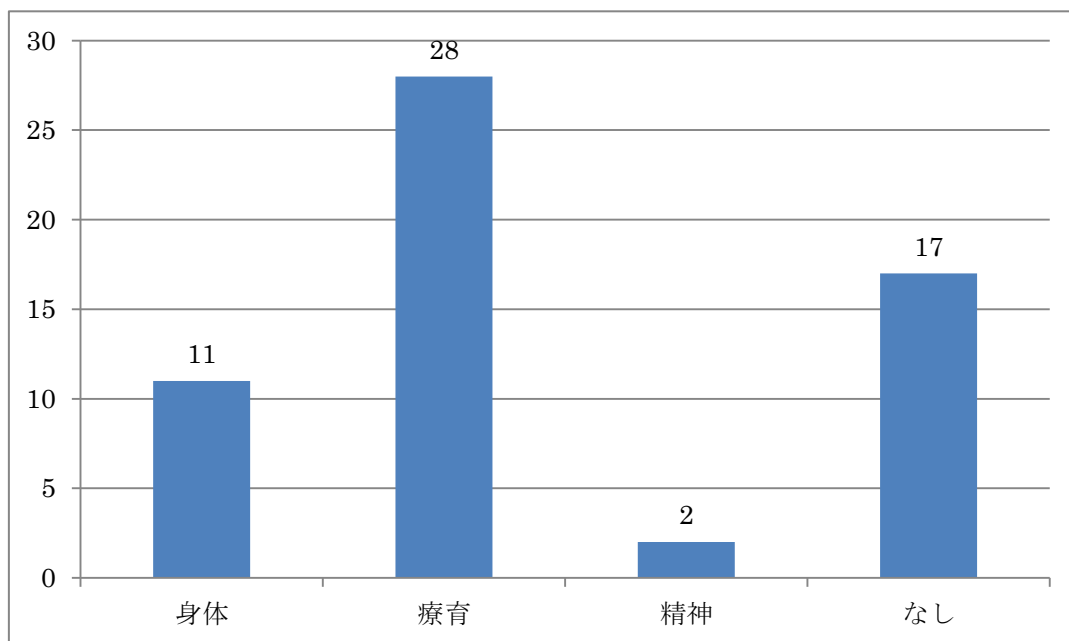
### (1)性別(単位:人)



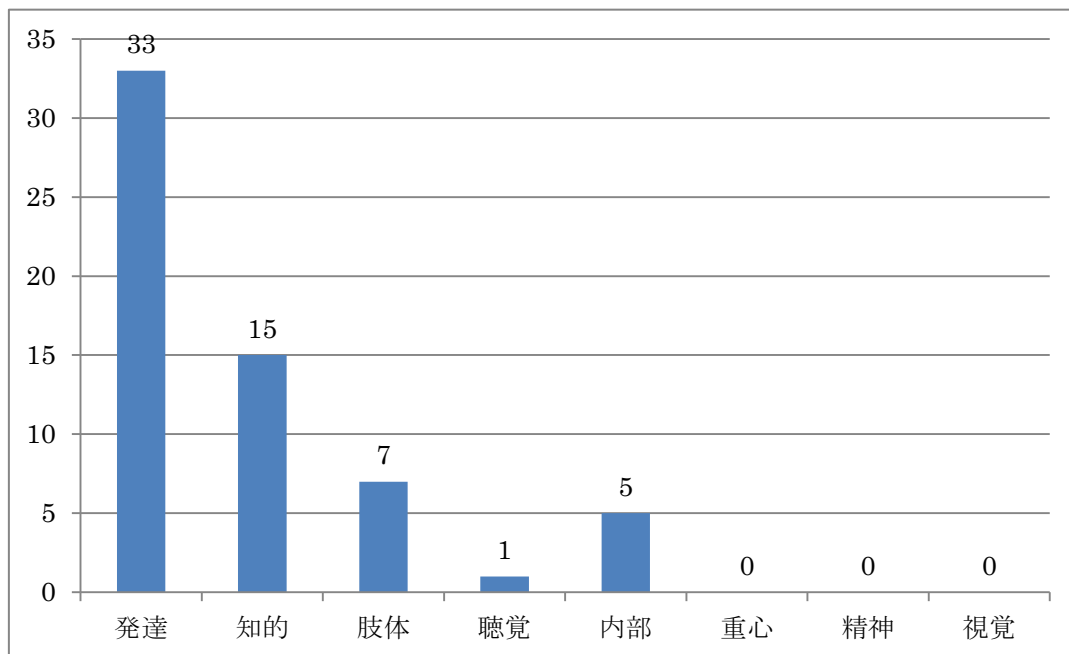
### (2)年齢区分(単位:人)



(3) 障がい者手帳の種別(単位:人)※重複あり



(4) 障がい種別(単位:人)※重複あり



(5) 医療的ケアの必要な児童数

6人(うち肢体不自由でも重症心身障がいでもない児童数は、3人)

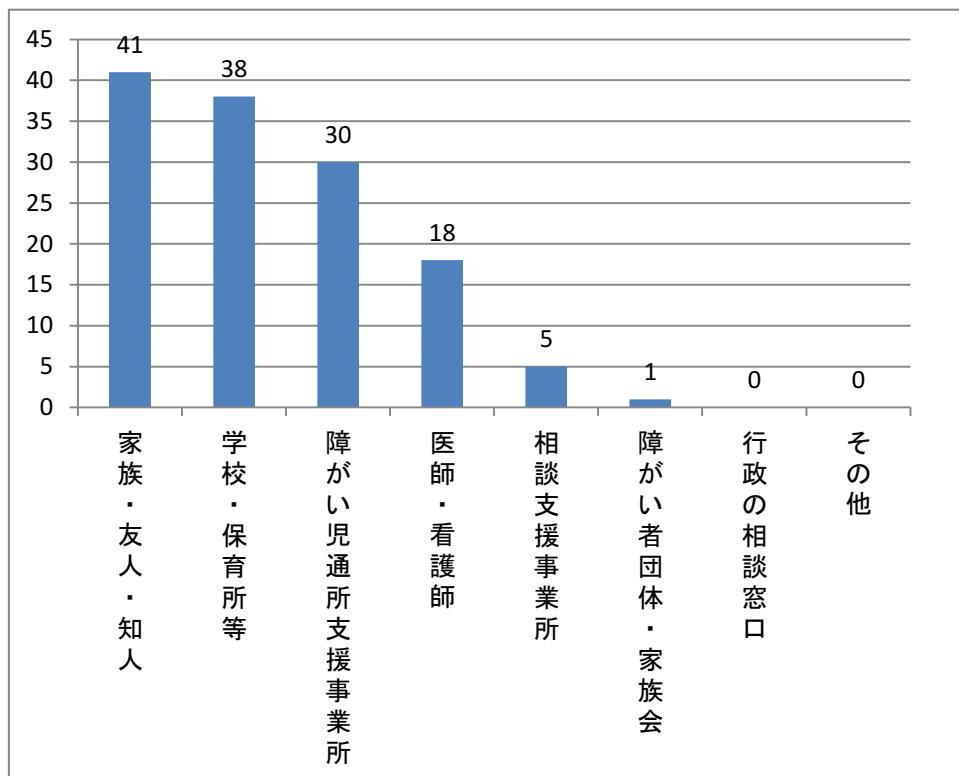
(6) 障害児福祉サービス利用のニーズ(単位:人)

サービス種別		A:現在利用あり・ 今後利用したい	B:現在利用なし・ 今後利用したい	C:現在利用あり・ 今後利用しない	今後利用ニーズ (A+B-C)	新規利用ニーズ (B-C)
通 所 支 援	児童発達支援	17	3	0	20	3
	医療型児童発達支援	1	3	0	4	3
	放課後等ディサービス	12	13	0	25	13
	保育所等訪問支援	7	9	0	16	9
	居宅型児童発達支援	(平成30年度からサービス開始予定)				
支 援 入 所	福祉型児童入所支援	1	11	0	12	11
	医療型児童入所支援	0	6	0	6	6
入 所 短 期	福祉型短期入所	1	13	0	14	13
	医療型短期入所	2	4	0	6	4
子 育 て 支 援 子 ど も	1号認定(教育)	2	4	0	6	4
	2号認定(保育)	11	3	0	14	3
	3号認定(乳児保育)	1	3	0	4	3
	放課後児童クラブ	2	11	1	12	10

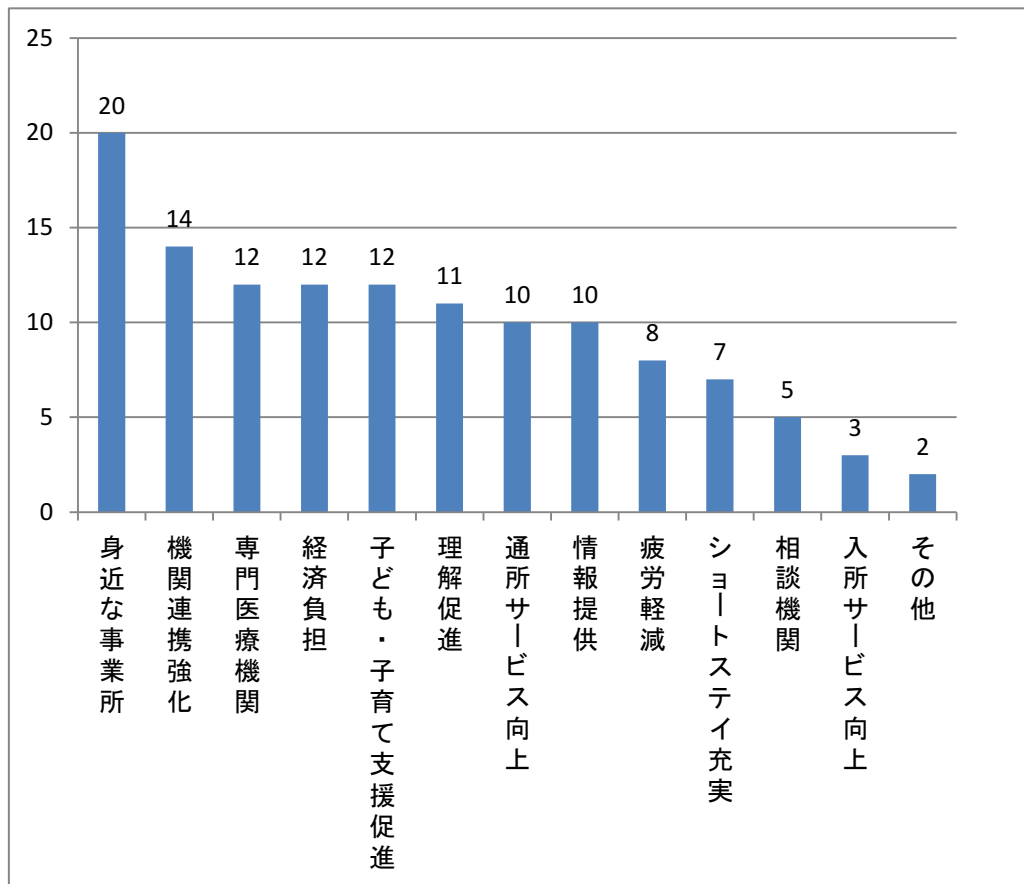
※今後利用したいを選んだ人の数

○福祉サービスの内容については、[資料 2 別紙](#)「質問2 お子様へのサービス利用ニーズについて」のサービス種別欄をご参照ください。

(7) 子どものことを相談している人や機関(よく相談しているものを3つまで選択)(単位:人)



(8) 施策に対するニーズについて(特に望む施策を3つまで選択) (単位:人)



ニーズ調査 質問4 困りごと、要望など (カッコ内はP 6～8に掲載の原文の番号)

- 障がいのある児童専用の塾や習い事の教室に通わせたい。(1・13)
- 食物アレルギー対応の事業所がない。(2)
- 心のケアを相談できる本格的な機関、発達支援に詳しい小児科医を希望。(4・17)
- 事業所の利用回数を増やしたい。忙しそうで相談しづらい。(9・15)
- 通級や通所に仕事を休まなければならない。(5・16)
- 小学校就学に関する不安。(8・11・14)
- 障がいが軽度、重度にかかわらず、安心して暮らしてゆける社会になってほしい。(12)
- 軽度の障がいをかかえる児童への支援が不足している。(7)
- 将来について(市内にグループホームを増やしてほしい、仕事や施設の情報が無い、相談機関・人材の充実)。(3・10)
- 市内に利用できるヘルパー事業所や短期入所施設がない。(6)

1	学習支援のみの短時間の利用をすることができないために、学力の保障をしてもらえない場がない。勉強も教えるのにコツがいるため、ふつうに塾では対応不可
2	市内に対応できる事業所がない。食物アレルギーに対応できる場がない
3	米子市は、グループホームがたくさんありますが、境港市には少なすぎると思います。境港で就職したくても、グループホームを米子で決めると通勤が難しくなります。家庭の事情で一緒に住めない場合、本人の自立のためにグループホームを必要としている家族もあると思います。境港市にもグループホームを増やしてほしいです。
4	カウンセラーの充実や利用しやすい環境。子供のこころのケアを相談できる機関の本格化へ。医療は病院で医学の進歩で進んでいるのに心のケアはどこも事務的な気がします。
5	月に2度別の市内の通級を利用しており、親が送迎をするため、仕事を休まなければならない事。
6	境港市に住んでいるが、市内に利用できるヘルパー事業所や短期入所施設がない為市外の事業所を利用しているのが現状です。市内に事業所があれば、より安心してサービスの利用ができ、地域の方々の理解も得やすいのではないかと考えています。一人で外に出してしまうことが頻回となっており、警察のお世話になることも増えている現状です。疲れがたまり、冷静に考える余裕がなくなっています。
7	今回のアンケートは、手帳を所持している者が対象となっており、一定以上の障がいをかかえる者に対しては、ある程度の支援がなされていると感じる一方で、軽度な障害(アスペルガー等)をかかえる者に対しての、このようなアンケート等も含めた支援がイマイチであると感じる。より充実することを強く望みます。
8	小学校就学への不安。第一子なので就学後のことが何もわからない。
9	親子共々に現在利用している事業所をととても気に入っていて、利用回数を増やしたいのですが、人気な事業所なのでしょうがないという気持ちです。
10	将来的に、グループホームに入所など、自立生活をさせたいが、仕事や、施設の情報が無い。本人は、お金や薬の管理が出来ない。親亡き後、お金、病院の受診など、本人の相談に乗ってくれる人材や機関が必要。

11	小学校に上がる際、息子の成長の様子で普通の小学校か養護学校になるか、来年話し合うが、今の地域区の学校(外江小)には通わせたくない
----	--

12	<p>小学校高学年時から、境港市で放デイに通っています。それまではそのような施設がなく、このまま孤立してしまうのでは…と不安になっていました。あれから少しずつ時代も変化し、障がい児・者に対する理解やイメージは昔と比べ変化してきている部分も多いです。放デイを利用してから、子供はコミュニケーション能力がぐーんと広く高くなりました。やはり通常の児童クラブよりも専門性があるので、良い施設は1人1人にあった力をつけてくれます。子供は小1から情緒の支援学級ですが、中学では一般学級へ移行する予定です(3年生頃…)。高校も一般の高校へ進みます。多くの支援者や通所児と関わり、積み重ねてきたものは、そういった所へ通わなかった児童とは大きな差があるはずです…一見、守られる場所、温室と思われがちですが、力をつけるために、寄り添いつつ、楽しみながらも、多くのことを練習したり、努力もし、得意なことも伸ばす…いろいろなことがつまった大切な場所です。特殊に見えてしまう方はまだ多いかもしれません…でも、将来、一般クラス・学校・社会へ入る時に、そういった学級や施設へ通っていたことは普通のこと、陰でコソコソ言われるような(小1の頃は近所の親にそうされました。その家庭の息子にはからかわれたりつねられたり…などあり…2年間集団登校をやめました。かなりその影響は大きかったです…)ことのない社会になるといいな…と思います。困難あっても、工夫したり、がまんしたり…いろいろな方法で乗り越えている方がそんな目にあいます。本当は、そんなコソコソした家庭こそ、恥ずかしいと気付くべきだと思います…(ちなみにその家庭の母親は公務員でした。)かえって、そういった場を選び、学んできた児童は認めてほしいです。放デイで2年間担当していただいた指導の先生は、現在も障がい児親の会の活動にボランティアで来てくださることもあります。子供の心の支えともなっています。ひとりっこなので、将来相談できる、信頼のある大人や、場所は、きれめなくつないでいきたいです。学校もいろいろ相談にはのってくださいますが、やはり長く関わるのは福祉の場だと思います。子供はいじめやひとりぼっちと感じた時(いつもではないです。そういう時もありました)でも、ぼくにはひなたとマオがあるといい、安心できる居場所にもなっています。そして、入っている親の会でも、そこでの仲間もいると言います。そこにとじこもるのではなく、それぞれの場で居場所や信頼できる人、仲間はとても重要だと思います。そういった中だといろいろなことがあっても、それも糧と変えることも出来ると思います。以前は、様々なことで(前職場含め)境港市に失望しかけてましたが、今は希望、多いです。出産時か前の担当保健師の自己中心的な対応にあ然とし、子供は小さく生まれ不安がありましたが、一切相談したくないし、信用できないと感じました。幼稚園を選んだ事も、市を信用できないと感じる事をその他にも知ったので、保育園はやめました…その後、年長で陽なたに出会い、再び市ともつながることもできました。でも、小1~小4までは陽なたはなく(小学生以下)、他の施設もなかったので、いろいろ大変でした…。今は市の保健師の方も何人かいるので、信用できる方々にも出会え、助かりました。福祉課の</p>
----	--

	<p>方でもいろいろ相談にのってくださり、本当に担当者でこうも違うのだ・・・ということをおぼたためて思いました。うわべだけ変わってもダメだと思います。みなさん、せっかく良い職業につかれたのだから、その立場の意味を理解すべきだと思います... (信用できないと感じた職員の方々)一生懸命している他の職員の方の信用にもかかわってきます... 市の中でもつながってゆけた信用できる方々と今後もつながっていきたいと思います。将来、障がいが軽度、重度にかかわらず、安心して暮らしてゆける鳥取県・・・であってほしいです。子供にとって、ずっと大切な故郷であってほしいです。</p> <p>*信用できない言動・行動をした職員の方々は、信用できる立場のそれぞれの部署の方にお伝え済ですので、改善しているといいな...と願っています。</p>
--	---

13	<p>子供が通える、専用の塾や運動ができる習いごとの教室などがあれば、通わせたい。(一般のところは、気を使ってしまう)運動などは、健常者と一緒でもよいが、専門の先生がいらっしやれば安心できる。将来のことを考えたとき、それに通じる準備ができると、心強い。</p>
----	--

14	<p>現在ではないのですが、小学校へ入学を決める時、校長からものすごく子供の発達障がいをおぼせられました。「あんな騒ぐ子はだめだ」とか「みんなと行動できない」とチクチクいわれました。発達障害のある親にはもっといい言葉を選んでしゃべってほしいと思いました。親はなんとかして小学校に入れたいと強く願っている方が多いのです。</p>
----	---

15	<p>現在は陽なたを利用していますが、スタッフの方々も忙しく、なかなか相談などがしづらい感じがします。専門的な知識のある相談機関が行政にもあればと思います。</p>
----	--

16	<p>障害児通所支援事業所にお世話になっていますが、仕事の都合などで週に1回行けるか、行けないか...の状態です。子供の体調がちょうど悪くなったりすると、通所を休まないといけない時もあります。他の日に通所をさせたいと思っても、仕事が休みづらいです。これは職場に言うべき事なのでしょうが気楽に言える環境ではありません。</p>
----	--

17	<p>地元で発達支援(児童)の詳しい小児科の先生がいてくださったら近場で相談に乗ってもらえるのではないのでしょうか。図書館に小児の発達障害関連の本をとり入れて頂けたらありがたいです。インターネットで調べるのには限界があり、どの先生の本がよいかかわからないです。よろしくお願ひします。</p>
----	---